

Xの罪責

1 Cに対する殺人未遂罪（行為①）

- (1) 実行の着手 ..... 17 ← 詳しく検討します (pp.196-198)。
  - ・準備行為と実行の着手
- (2) 結果の不発生 ..... 1
- (3) 故意 ..... 8 ← 故意の検討も必要です (pp.198-199)。
  - ・一連一体性

2 Cに対する殺人未遂罪（行為②）

- (1) 実行の着手 ..... 15 ← 1(1)と同じ実行の着手の問題ですが、1(1)とは特徴が違うところがあるので、ここも詳しく論じます (p.200)。
  - ・間接正犯における実行の着手
- (2) 結果の不発生 ..... 1
- (3) 故意 ..... 2

3 Eに対する殺人罪（行為②）

- (1) 実行行為 ..... 8 ← 実行行為性を肯定する立場を前提にしています。
- (2) 結果との因果関係 ..... 15 ← 詳しく検討します (pp.200-202)。
  - ・危険の現実化
- (3) 故意 ..... 15 ← 詳しく検討します (p.202)。
  - ・具体的事実の錯誤

4 D に対する殺人未遂罪（行為②）

(1) 実行の着手 ..... 7

・ 間接正犯における実行の着手

(2) 結果の不発生 ..... 1

(3) 故意 ..... 5

・ 具体的事実の錯誤

← 2(1)で規範定立をしていれば、ここでは当てはめを中心に。

← 因果関係の検討が必要かについては、p.203 参照。

← 3(3)で規範定立をしていれば、ここでは当てはめを中心に。

5 罪数 ..... 5